

「宇治市の学校給食費無償化と豊かな給食を求める請願」 「誰もが安心して子どもを産み・育てられるよう宇治市の保育 充実を求める請願」 自民・公明・うじ未来らが反対し不採択

12月定例会に「宇治市の学校給食費無償化と豊かな給食を求める請願」と「誰もが安心して子どもを産み・育てられるよう宇治市の保育充実を求める請願」がだされ、12月16日に開催された市議会文教福祉常任委員会で審査が行われました。

「給食の無償化」については、請願人の奥西ちひろ氏が参考人として出席し、「物価の高騰が続いており、宇治市の責任で無償化を実現してほしい」と訴えました。党議員団は、いずれの請願にも賛成しましたが、自民・公明・うじ未来などの反対で不採択となりました。

【給食無償化】

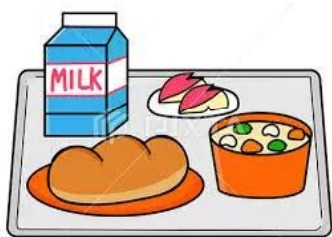
◎2023年9月1日時点での文科省の実態調査で、自治体の財政力にかかわらず、小中学校全員を対象にした給食費無償化をしている自治

体は547自治体にもなっている。その約9割が「保護者の経済的負担の軽減、子育て支援」を目的にしており、50カ月連続の物価高騰のもと、宇治市でも保護者の経済的負担の軽減は喫緊の課題だ。

政府において、2026年度からの小学校給食費無償化にむけた方針を固め、制度設計が進められており、宇治市において、国の動きを好機ととらえ、かつ2026年度から宇治市も中学校給食を開始することから、小学校だけでなく中学校の給食費も完全無償化を実施すべきだ。

◎学校給食法の目的・目標は、適切な栄養摂取による児童生徒の心身の健全な発達や、給食を通じた食に関する理解や判断力の育成としている。この目的を達成するうえで、児童生徒が調理員の働く姿を目にし、給食ができるにしたがって匂いが漂う自校給食方式が優れている。中学生においてもその体験は重要ですが、小学生においてはなおさらだ。

◎学校給食は、時代とともに充実・発展していく必要がある。そのために市教委の主導的役割が求められ、直営で、市教委が公務員の調理員とともにより良い給食をめざしノウハウや課題などを把握し、取り組むことが欠かせない。よって、本請願に賛成する。



議員団の賛成討論

◎子育て世帯の負担軽減のために、全国の自治体で、小学校・中学校の給食費無償化が広まっている。政府も来年度から小学校の給食費の無償化に向けて制度設計に取り組んでいる。宇治市の小学校給食費は、月額約4,400円だ。一方、宇治市の公立保育所（3～5歳児）では、主食費月額1,000円、副食費月額4,500円で計月額5,500円。小学校の給食費と比べても負担が重くなっている。子育て世代の負担軽減として、3～5歳児の保育料が無償になったが、給食費の無償化も行うべきだ。

◎3歳～5歳児の保育料は無料になり、高校生の授業料も国公立は今年度から無償化された。3歳未満児の保育料が取り残されている。小さなお子さんの子育て世代は、年齢も若く、収入が少ない世代だ。3歳未満の保育料も無償化し、経済的負担を軽減して子育てを応援すべきだ。

◎保育士から、一人でたくさんの子供を見ると、ひとりひとりに丁寧に接してあげないといけないと思っても、なかなかできない。走り回る子もいて、ケガをしないよう注意が必要になり、どの子にも丁寧に寄り添うのが難しい。配置基準の改善、また複数の保育士で担任ができれば、「こどもまんなか」のよりよい保育がしやすくなると訴えている。配置基準の改善で宇治市で一歩進んだ保育環境の実現が求められる。よって、本請願に賛成する。

【保育の充実】



